

会長就任にあたり

日本中小企業学会 池田 潔 新会長挨拶



池田 潔 (大阪商業大学) 新会長

＜中小企業学会の新たなステージを拓く＞

2022年11月1日付で、日本中小企業学会第15代会長に就任しました。前任の佐竹隆幸会長が任期半ばで急逝されたことに伴い会長代行を務めてきましたが、今回、会長に選出されました。日本中小企業学会の創設が1980年ですから、40数年が経ちます。初代会長は、「中小企業は異質多元な存在である」で著名な山中篤太郎先生ですが、そこからこの日本中小企業学会は、日本の中小企業研究を代表する学術研究団体として発展し、今日に至っています。

学会は、研究従事者が自己の研究成果を発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討討議する場です。日本中小企業学会でもこれまで、様々なテーマで統一論題や自由論題が報告され、議論されてきました。自然科学の分野では、新たな発見や理論でも、白黒がはっきりし、衆目も納得することが比較的多いように思います（門外漢なので間違っているかもしれませんが）。しかし、社会科学の分野では、様々な考察や意見が飛び交い、一つの見解に収斂することは難しいように思います。ただ、そのことは社会にとってはむしろ健全だと考えます。とはいえ、自然科学にしても社会科学にしても科学していることに変わりはありません。中小企業研究も社会科学の一分野として、社会に役立つ学問であることが問われています。

こうした視点で中小企業研究を俯瞰しますと、中小企業の本質や抱える問題・課題等を巡って様々な議論が行われてきましたが、資本主義社会そのものが揺らぎ、変質してきている現在、中小企業研究にも新しい視点や変革が求められていると言えましょう。ただし、日本中小企業学会も学会という組織である以上、これまでの歴史・伝統を引き継ぎながら変革していく必要があります。前会長の佐竹隆幸先生や元会長の岡室博之先生の言葉を拾うと、「研究成果の地域社会への還元」「変革の時」でした。時々の社会環境変化や、学会組織の現状を踏まえ、どのような思いで学会を率いていこうとされたのかの思いが凝縮されているように思います。

現下の中小企業が置かれている状況として、これまで日本の成長を支えてきた中小企業が、後継者難による事業承継問題や技能承継問題に直面していること、グローバル化の深化等により、中小企業問題の大宗を占めてきた下請系列が崩壊しだしていること、DXをはじめとする新技術にいかに対応し、イノベーションに取り組んでいくかなど、問題や課題が山積しています。こうした問題や課題に、日本中小企業学会として真摯に対応していくことはもちろんですが、他学会に所属する異分野の研究者との交流を図ることで、新たな知見の獲得や、創発を生むことが期待されます。このため、次回の全国大会ではトライアル的に工学分野の研究者を招聘し、特別講演を組み入れる予定です。

昨秋、韓国中小企業学会との連携協定を締結しましたが、今後、国際的な学術交流をよりいっそう推進していきます。今般のコロナ騒動では、広くオンラインの利活用が進みましたが、学会においてもオンラインを活用した部会間の交流や、テーマを決めた研究会の開催、さらにはオンライン・ジャーナルの創設等も実施に向けた重要な取組課題です。

今後、若手研究者をはじめ、様々な方々のご意見を取り入れながら、学会活動がよりいっそう充実し、活発化するよう尽力していく所存です。これから3年間、事務局ともどもよろしくお願いいたします。

※ 新会長挨拶は、YouTubeでもご覧いただけます。リンク先：<https://youtu.be/SjqNX-K5aJ0>